

小樽市委託事業
平成30年度 高校生就職スキルアップ支援事業

実績報告書

平成31年3月31日

株式会社ホープ・ワン

＝ 目 次 ＝

本 編

| | | |
|----------------------------------|-------|------|
| I. はじめに | | P 1 |
| (1) 業務目的 | | P 1 |
| (2) 実施期間 | | P 1 |
| (3) 業務内容 | | P 1 |
| | | |
| II. 高校生（就職希望生徒）への支援について | | |
| (1) 受講生の登録 | | P 2 |
| (2) 就活セミナーⅠ | | P 3 |
| (3) 就活セミナーⅡ | | P 5 |
| (4) 企業見学会 | | P 6 |
| (5) インターンシップ | | P 9 |
| (6) 先輩との交流会 | | P 9 |
| (7) 就職活動実践サポート | | P 10 |
| (8) 企業と高校を結ぶ情報交換会 | | P 10 |
| | | |
| III. 新卒未就職者、若年早期離職者への支援について | | |
| | | P 12 |
| | | |
| IV. 平成 30 年度事業を終えて（現状と課題及び今後の取組） | | |
| (1) 高校生（就職希望生徒）への支援について | | P 13 |
| (2) 新卒未就職者、若年早期離職者への支援について | | P 13 |

I. はじめに

市内高校生に対するここ数年の求人倍率は高い水準で推移しており、就職を希望する生徒の内定状況は概ね好調である（平成29年度就職内定率98.7%）。

一方、市内の高校生の就職内定者のうち、市内事業所への内定者の割合は平成29年度が40.7%だったものの、今年度は2月末時点で48.0%となっており、昨年度より7.3ポイント増加したが、人口減少問題を抱える小樽市においては、若者の市外流出がその要因の一つとされ、高校生の地元企業への定着率向上が喫緊の課題である。

また、小樽市においては、人口減少が街全体の活力を低下させており、特に、生産年齢人口が低く、働く世代が2人に1人しかいないという極めて厳しい状況にあり、慢性的な人手不足による事業の規模縮小や撤退など、企業の存続に直面する状況を招いている。なお、人口の主な流出先である札幌市との比較においては様々な理由があるが、経済面では例えば、「働き口が少ない」、「賃金が安い」、「家賃が高い」などが挙げられている。

このような状況の中、小樽市においては、平成21年度から主に高校生の就職に向けた実践力を早い段階から向上させ、正規雇用につなげるための取組み並びに地元企業への定着促進を進めており、平成30年度においても、就活セミナーⅡとして、社会に出た時に最低限知っておくべき必要のある社会保険の仕組み等を解説するセミナーの新規開催、「企業と高校とを結ぶ情報交換会」を企業と学校がより密に情報交換できるように工夫しつつ、本年度の「高校生就職スキルアップ事業」を実施した。

(1) 業務目的

主に市内高等学校において就職を希望する生徒の就職率向上及び地元定着を図るため、業務目的を以下のとおり設定。

- ① 高校生について、就職に対する意識向上を図るほか、コミュニケーション能力や礼儀作法など、就職活動に必要な心構えや就職後に求められるビジネスマナーの基礎知識等を身につけることを目的とした。
- ② 進路指導担当教諭などの学校職員及び高校生について、市内企業に対する理解及び認識を深めるとともに、高校生に対しわかりやすく市内企業情報を提供することを目的とした。
- ③ 市内高等学校及び市内企業において、意見及び情報等の交換及び共有ができる機会を設けるとともに、市内企業に対し人材確保のための機会を提供することを目的とした。
- ④ 新卒未就職者（事業実施年度の前年度に高等学校を卒業した未就職の者）及び若年早期離職者について、主に高等学校卒業後3年未満の者が安定した就労（正規雇用）につなげることを目的とした。

(2) 実施期間

業務の実施期間は、平成30年4月2日から平成31年3月31日まで。

(3) 業務内容

高校生（就職希望生徒）への支援として、就活セミナーⅠ、就活セミナーⅡ、企業見学会、インターンシップ、先輩との交流会、就活実践サポート及び企業と高校とを結ぶ情報交換会の取り組みを実施。また、新卒未就職者及び若年早期離職者への支援として、就活セミナーⅠ、就活セミナーⅡ、企業見学会、就活実践サポート、職業紹介事業及び生活支援事業の取り組みを実施した。

Ⅱ. 高校生（就職希望生徒）への支援について

(1) 受講生の登録

昨年度までは登録用紙による事業への登録申込みを行っていたが、学校から、生徒の個人情報保護の観点から登録手続きを無くして欲しいとの要望を受け、今年度は登録申込みを特に行わずに、就活セミナーや企業見学会等の参加人数をカウントする形として事業を進めた。

最終的な登録者数は前年度に比べ半数の255名（前年度末登録者数473名）となった。減少要因としては、小樽水産高等学校と小樽商業高等学校においてセミナーの活用希望が無かったことが大きい。また、前年度は小樽桜陽高等学校のセミナーを行った際の参加人数は登録者としてカウントしていなかったが、今年度は参加者をカウントしたことにより集計に加えた。

なお、フォローアップ生徒（卒業年度の前年度に登録し引き続き卒業年度にも登録した生徒）の年度末登録者数は21名（前年度23名）となり、前年度と比べ2名減となった。

【年度末時点での高等学校別の登録者数】

| 学校名 | 全日・定時 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | H30計 | H29計 |
|----------------|-------|----|----|-----|----|------|------|
| 北海道立小樽潮陵高等学校 | 全日 | — | — | — | — | — | — |
| | 定時 | 9 | 5 | 6 | 1 | 21 | 17 |
| 北海道立小樽桜陽高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 120 | — | 120 | 9 |
| 北海道立小樽商業高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 4 | — | 4 | 84 |
| 北海道立小樽未来創造高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 2 | — | 2 | 2 |
| | 定時 | 3 | 3 | 5 | 8 | 19 | 19 |
| 北海道立小樽水産高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 10 | — | 10 | 338 |
| 小樽明峰高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| 小樽北照高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| 双葉高等学校 | 全日 | 0 | 0 | 79 | — | 79 | 4 |
| 計 | 全日 | 0 | 0 | 215 | — | 215 | 437 |
| | 定時 | 12 | 8 | 11 | 9 | 40 | 36 |
| 合計（全日・定時） | | 12 | 8 | 226 | 9 | 255 | 473 |

(2) 就活セミナー I

就職活動に必要な心構えや基礎知識（自己理解、職業理解等）就職後に求められるビジネスマナーの講義を以下のとおり小樽潮陵高等学校定時制、未来創造高等学校定時制、小樽桜陽高等学校の3校で実施した。なお、就活セミナー開催にあたり、開催時期や講義内容は学校と調整の上、授業の一環として実施した。残る高校については、授業として時間がとれないなどの理由により本セミナーの活用希望はなかった。

① 総合学習「働くことの意義」

日 時 平成30年4月24日（火）17時35分 ～ 18時20分

場 所 北海道立小樽潮陵高等学校 定時制

参加者 同校1年生 8名、2年生 5名、3年生 6名、4年生 1名 合計 20名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 ワークシートにて、各自が「働く理由」の上位3位までを選択してもらった。解説のあと、スティーブジョブズの最後の言葉を紹介した。また、残りの10分は、5/1のセミナーに繋げるために、各自に「強み、弱み」を記入してもらった。

② 総合学習「企業が求める人物像への自己アピール」

日 時 平成30年5月1日（火）17時35分 ～ 18時20分

場 所 北海道立小樽潮陵高等学校 定時制

参加者 同校1年生 9名、2年生 5名、3年生 6名、4年生 1名 合計 21名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 前半は、自己PRを文章にするための下準備として、自分の強みに関連した「取り組んだこと」「経験したこと」を上げてもらった。この続きは次回に行くこととして、後半は、挨拶・言葉使い・席次などのマナーを説明した。

③ 総合学習「企業担当者の心に響く自己アピール」

日 時 平成30年5月22日（火）17時35分 ～ 18時20分

場 所 北海道立小樽潮陵高等学校 定時制

参加者 同校1年生 7名、2年生 4名、3年生 3名、4年生 1名 合計 15名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 どんな場面で自分をアピールするかの説明の後、自己PRの見本をいくつか見せてから各自に書いてもらう実習に入った。なお、見本の中には、来年就職する3名に予め書いてもらって添削を加えたものを含み、頭に入り易いよう工夫した。

④ キャリア教育「自己理解を深めて自己PRを作ろう」

日 時 平成30年5月30日（水）20時10分 ～ 20時55分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校2年生 5名、3年生 4名、4年生 7名 合計 16名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 最初に、隣の友人から「いいところ」を教えてもらう実習を行って自分の強みについて気づいてもらったあと、その強みを自己PRとして文章化する実習に繋げた。最後に、文章化出来

た生徒に発表してもらった。

⑤ キャリア教育「体験！こんな時、どうする！？」

日 時 平成30年6月20日（水）20時10分 ～ 20時55分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校1年生 2名、2年生 3名 合計 5名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 マナー教育として、基本マナーとビジネスマナーに特化した内容で実施。席順(上座・下座)での順序は、回答する前に考えてもらったため、活発な発言があり盛り上がった。加えて、お客様が打合せのために来社したとの想定で、1年生と2年生に分かれて応対を実習した。

⑥ キャリア教育「体験！こんな時、どうする！？」

日 時 平成30年6月27日（水）20時10分 ～ 20時55分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校3年生 3名、4年生 7名 合計 10名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 6/20に行った1、2年生向けのセミナーを、構成を多少変えて、3、4年生向けに実施。1、2年生向けと同様に、楽しんで憶えてもらえたと思う。

⑦ キャリア教育「様々な職業と様々な働き方」

日 時 平成30年9月5日（水）20時10分 ～ 20時55分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校1年生 2名、2年生 2名 合計 4名

講 師 認定キャリアコンサルタント 高橋 一哉

内 容 職業の選び方として、自分に向けた職種を深く考えずに企業ブランドだけで就職した自分の失敗談も交えて説明。働き方では、社員の形態、社会保険の種類は丁寧に説明した。最後に、就職して1年後の自分がどうなっているかを、イメージして書いてもらった。

⑧ キャリア教育「アサーショントレーニング」

日 時 平成30年10月10日（水）20時10分 ～ 20時55分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校1年生 2名、2年生 3名 合計 5名

講 師 チーフ 佐藤 貴広

内 容 スライドを基にコミュニケーション技法としてのアサーションを紹介し、アサーションを利用した対応の仕方を説明。その後、基本的な非言語スキルを確認後、シナリオを基に2人1組に分かれて、会話の続きを実習してもらった。

⑨ 教養講座「ビジネスマナーの基本とは」

日 時 平成30年12月18日(火) 12時30分 ~ 13時30分

場 所 北海道立小樽桜陽高等学校

参加者 同校3年生 120名

講 師 チーフ 佐藤 貴広

内 容 来春から新社会人になる3年生の進路確定者に対して「ビジネスマナーの基本」について講義。スライドを基に、基本マナーの「挨拶」「お辞儀」「言葉遣い」について説明し、「お辞儀」については参加生徒全員で実践した。また、「電話対応」「席順(上座・下座)」を中心に実社会で気を付ける点を説明した後、社会人の心得を教授した。

(3) 就活セミナーⅡ

双葉高等学校と未来創造高等学校定時制の2校において、来春から新社会人になる進路確定者に対して、「社会保険のしくみ」について経営者または特定社会保険労務士より、社会に出た時に最低限知っておく必要がある社会保険の種類や仕組みに関する基礎知識について教授した。なお、開催回数は計画の9回より少なかったが、これは初年度だったこともあり、未だ学校側が本セミナーの必要性を認識していなかったためと思われる。ただ、今回開催した学校では非常に好評であり、「来年もぜひお願いしたい」とのお話を頂き、他の学校からも内容の問合せが来ている。来年度は積極的にアプローチしていきたい。

① 「社会保険のしくみ」について

日 時 平成31年1月25日(金) 10時55分 ~ 11時45分

場 所 学校法人 北海道龍谷学園 双葉高等学校

参加者 同校3年生(3組) 26名

講 師 高校生就職支援スキルアップ事務局 代表 天野 友嗣

内 容 社会に出た生徒たちが最初の給料日に目にする給料明細書から紐解き、実社会で気を付ける点を説明した後、社会保険の大切さを教授した。アンケートでは、「初めてもらう給料から色々引かれるなんて知らなかった」、「保険は大事なのでしっかりと入っていた方が良かった」となどの意見があった。

② 「社会保険のしくみ」について

日 時 平成31年1月29日(火) 10時55分 ~ 11時45分

場 所 学校法人 北海道龍谷学園 双葉高等学校

参加者 同校3年生(4組) 25名

講 師 特定社会保険労務士 泉亭 実

内 容 社会に出た生徒たちが最初の給料日に目にする給料明細書から紐解き、実社会で気を付ける点を説明した後、社会保険の大切さを教授した。アンケートでは、「将来役に立ちそうな話ばかりだった」、「社会保険について、自分で「知ろう」と思った」となどの意見があった。

③ 「社会保険のしくみ」について

日 時 平成31年1月31日(木) 9時55分 ~ 10時45分

場 所 学校法人 北海道龍谷学園 双葉高等学校

参加者 同校3年生(5組) 25名

講 師 特定社会保険労務士 泉亭 実

内 容 社会に出た生徒たちが最初の給料日に目にする給料明細書から紐解き、実社会で気を付ける点を説明した後、社会保険の大切さを教授した。アンケートでは、「社会保険はこれから生活していくためのとても大切なものだ」という事がよく分かった、「社会保険と民間の保険の違いが分からなかったが、聞いて納得した」などの意見があった。

④ 進路講話「社会保険のしくみ」

日 時 平成31年2月18日(月) 17時30分 ~ 18時15分

場 所 北海道立未来創造高等学校 定時制

参加者 同校4年生 5名

講 師 特定社会保険労務士 泉亭 実

内 容 社会に出た生徒たちが最初の給料日に目にする給料明細書から紐解き、実社会で気を付ける点を説明した後、社会保険の大切さを教授した。アンケートでは、「自己申告しないと給付されないのは驚きだった」、「給料明細を表示しながらの説明は分かり易かったし、自分が就職する上で聞きたかったことを学べて良かった」などの意見があった。

(4) 企業見学会

企業見学会は、高校生が実際の就業環境や業務内容を見ることでより具体的に就職や企業の業務をイメージすることが可能となり、適正な職業選択や就職後の離職率の低下が期待できる。また、企業にとっても、直接、高校生に企業を紹介することができる場である。昨年度までは半期単位で計画して開催予定を学校に提示していたが、今年度は2~3週間先開催の短いスパンで個別に計画して参加生徒を募って進め、予定した12回のうち10回を実施することが出来た。2回は参加者が集まらなかったために中止となった(詳細は別紙参照)。市内全8校中5校(桜陽、未来創造(定時)、商業、双葉、水産)、延29名の生徒が参加した。

なお、企業見学会終了時には、参加生徒に対しアンケート調査を実施したが、「社内の空気感がとても良いと感じた」、「とても社員を大切にしているんだなと思った」、「新しい社員の方から、最初に大変だったことなどの話も聞けたので参考になった」などの意見や「社内の人間関係の話がとても印象に残った」といった回答があった。また、学校からは、「採用選考後の早い段階で就職希望者全員が内定を頂けたのは、企業見学会に参加することにより「働くという事を知る」ことから始めたためだと思う。」といった意見があった。

事業の評価の集計としては、企業見学会の実施について「大変良かった」が97%、「良かった」が3%、普通・良くなかった・どちらとも言えないは各々0%という結果になった。

<第1回企業見学会>

日 時 平成30年6月23日(土) 10時00分～11時30分

場 所 株式会社 かま栄 本社・直営店(小樽市堺町3番7号)

参加者 2校2名

内 容 会議室で、会社の歴史や製品、そして高校生の採用に関する色々な説明をお聞きしたあと、工場に移動して、製造に関する説明をお聞きしながら、手作りにこだわる「職人の技」をじっくりと見学させていただきました。また、店舗内も案内させていただきました。

<第2回企業見学会>

日 時 平成30年7月13日(金) 13時30分～15時00分

場 所 ワタキューセイモア 株式会社(小樽市新光5丁目13番3号)

参加者 3校8名

内 容 会社の創設からの歴史や業務内容などを詳しくお聞きしたあとで、職場の見学として、主にクリーニング業務を行っている工場の中を見学させていただきました。また、質疑応答では、ワタキューセイモアさんに関するだけでなく、これからの就活のためになるアドバイスをたくさん頂きました。

<第3回企業見学会>

日 時 平成30年7月14日(土) 13時00分～14時30分

場 所 株式会社 エムデジ(小樽市築港11番5号ウイングベイ小樽内 1階店舗)

参加者 1校1名

内 容 同じウイングベイにある当社の教室を使って、会社概要や業務内容、求める人物像や入社後の研修の流れなどを説明頂いたあと、下のフロアにある、エムデジさんが運営されている店舗に移動して、職場見学させていただきました。また、2階で開催していたエムデジさんのスタッフが運営する携帯電話の販売促進のイベントも見学させていただきました。

<第4回企業見学会>

日 時 平成30年7月14日(土) 15時30分～17時00分

場 所 新日本海フェリー 株式会社(小樽市築港7番2号勝納ふ頭)

参加者 3校4名

内 容 会社の概要や物流の仕組みなどを詳しく教えていただき、停泊している「らべんだあ」に乗船して各種客室などを見学し、さらに、ヘルメットや安全ベストを着用して、車両甲板を見学しました。そして、下船してから「らべんだあ」の出航を見送らせて頂きました。

<第5回企業見学会>

日 時 平成30年7月25日(水) 10時00分～11時30分

場 所 小樽市消防署(小樽市勝納10番1号)

参加者 4校6名

内 容 会議室で消防の仕組みや仕事の内容、採用試験などのご説明のあと、下の格納庫に降りて、はしご車やタンク車など、いろいろな消防自動車回って説明して頂きました。仕事の内容については、まるでドラマの1シーンのような、緊迫した現場の体験談を交えて話して頂け

ました。

<第6回企業見学会>

日 時 平成30年8月2日(木) 13時00分～14時30分

場 所 株式会社 温泉宏楽園 (小樽市新光5丁目18番2号)

参加者 1校2名

内 容 宏楽園の歴史や仕事内容などのご説明のあと、職場の見学として、事務所、厨房等を見せて頂き、さらに各お部屋やお風呂を回って説明して頂きました。3年前の火事のあとにご苦労されてその経験を今に活かしていらっしゃるとのことでした。

<第7回企業見学会>

日 時 平成30年8月3日(金) 13時30分～15時00分

場 所 株式会社 新倉屋 花園本店 (小樽市花園1丁目3番1号)

参加者 2校2名

内 容 新倉屋の歴史や経営理念である「一期一会」の意味や、扱っている商品などの説明のあと、店内を詳しく説明して頂き、今年入られた方に、大変だった経験などをお話して頂きました。最後に、お団子を試食しながら質疑応答させていただきました。

<第8回企業見学会>

日 時 平成30年9月8日(土) 10時00分～11時30分

場 所 社会福祉法人 小樽北勉会 特別養護老人ホーム 朝里温泉

(小樽市朝里川温泉2丁目708番地1)

参加者 1校1名

内 容 法人が運営している施設や事業所、介護の仕事内容や「やりがい」などの説明があり、そのあとに、施設の中を案内して頂きました。説明の中で入居者は身の回りのことを職員が全てやるのではなく、他の入居者や自分のお茶碗を洗うなどの出来ることはやっていただき、生活の質を保ちながら、人の役に立つ喜びを感じていただいているとのことでした。

<第9回企業見学会>

日 時 平成30年10月13日(土) 10時00分～11時30分

場 所 稲穂スズキ 株式会社 スズキアリーナ小樽 (小樽市塩谷1丁目25番15号)

内 容 募集したが参加希望が無かったため中止

<第10回企業見学会>

日 時 平成30年11月17日(土) 10時00分～11時30分

場 所 有限会社 ツクナカ (小樽市築港6番4号)

内 容 募集したが参加希望が無かったため中止

<第11回企業見学会>

日 時 平成31年1月19日(土) 9時30分～11時00分

場 所 株式会社 紀伊國屋書店 (小樽市稲穂2丁目22番8号 駅前第一ビル2階)

参加者 1校1名

内容 開店準備のお仕事から見せてもらうため、開店30分前の9時半からスタートしました。まず業務内容の説明があり、朝礼に参加したあと、店内を回って説明を頂きました。どこにどんな本を置いたら売れるのか、自分の感覚で配置を工夫しているとのお話もありました。

<第12回企業見学会>

日時 平成31年2月16日(土) 14時00分～15時00分

場所 株式会社 ニュー三幸 (小樽市稲穂1丁目3番6号 サンモール1番街)

参加者 1校2名

内容 会社の概要や働くにあたっての心構えなどのご講話があり、ホールや厨房を見学させて頂きました。ご講話の中で、常連のお客様は「ニュー三幸」の料理を楽しみに来て頂いており、料理やサービスを提供するにあたっての接客の心構えやおもてなしなどについて、参加した生徒は真剣に聞いておりました。

(5) インターンシップ

インターンシップは、生徒が在学中に自らの学習内容や将来の進路等に関連した就業体験をすることを目的に実施するものであり、本事業ではH28年度から実施した。

北海道(北海道教育委員会)では受入企業等の確保などの課題を解決し内容の充実を図るため「高校生インターンシップ推進事業」を実施しており、道内全ての道立高校においてインターンシップが実施されている。

道立高校が実施するインターンシップでは、基本的に1人の生徒が参加できる企業を複数とすることが難しいと伺っており、これは、学校においては学校教育法や高等学校学習指導要領などに基づく様々な活動が課せられていることが、複数企業へのインターンシップ実施が難しい要因として考えられる。

本事業では、このような学校の取組とは別に、少人数で時期を限定せず生徒の希望職種に合った市内企業での職場体験を実施するため、高校生や各市内高校へアプローチし、市内企業とも調整を行った。だが、今年度も昨年度に比べ、さらに就職活動が生徒優位で進んでいることに加え、学校から企業に直接依頼しやすくなっている。また、応募前見学の回数を増やして、インターンシップを行なう時間が取れなかった高校もあった。

結果として、今年度の仲介件数としては昨年度より減り、市内1校、延2名の生徒が2事業所でのインターンシップを経験することができた。なお、参加した生徒に対する意識調査では、「自分のことを期待してくれたので自信が付いた」、「業種を絞らずに他にも行ってみたい」などの意見があった。

【実施時期、受入企業、参加生徒】

第1回 平成30年4月27日(金) 小樽中央自動車学校 1校1名

第2回 平成30年5月11日(金) 株式会社 恵新自動車学園 1校1名

(6) 先輩との交流会

市内企業の若手社員と高校生との交流会を実施。高校生から先輩である若手社員へは、「もっとやっておけば良かったなと思うところ」、「3年生の今、やっておいた方がいいこと」、「入社への動機やきっかけ」などたくさんの質問が出され、各々の質問に丁寧に回答して頂いた。また、後半は4～5人ずつの

グループに分かれてフリートークを行ったが、大きな笑い声が聞こえて来て、大変盛り上がっている様子だった。

なお、交流会終了後に実施した生徒に対する意識調査では、「同じ高校の先輩と楽しく話せたことが今後の就職活動に役立つと思う」、「普段は聞きづらいことや働いてからのことを色々聞くことが出来て良かった」、「答えにくい質問も笑顔で答えてもらってうれしかった」などの意見があった。

日 時 平成30年6月14日（木）15時30分～17時00分
場 所 小樽経済センター 4階 Aホール
参 加 2校4名
若手社員 4社5名

(7) 就職活動実践サポート

就職活動で必要とされるスキルである「履歴書作成指導」、「面接の受け方（模擬面接を実施）」などについて、個別に初回面談で就職に向けたスキルの習熟度を確認し、生徒に足りない部分について個別のスケジュールを組みながら指導を行った。また、今年度は学校から要望があり、5月の時点で1対1の面談形式にて「今後の就活の進め方」等についてアドバイスを行った。

希望があった生徒は市内全8校中3校（水産、潮陵定時、未来創造定時）延べ39名であり、指導は、学校またはホープ・ワン（相談室）にて行った。

面接の受け方や履歴書の作成は各学校においても実施しているが、本事業では外部講師による指導が受けられ、より本番に近い状況での模擬面接が実施できるという利点があることから、受講した生徒からは、「改めてビデオで見ると、自分の悪い部分がよく分かった」、「クラスメートの映像を見て、自分も改善することができた」などの意見が多く、また、学校からは、「今まで機材の関係で中々ビデオ撮影をしてフィードバックがするという事が出来なかったが、映像として残っているので生徒と一緒に振り返り、細かい所まで指導することが出来て良かった」、「企業の採用担当者が面接時に生徒をチェックするポイントを適切に身振り手振りを加えながら生徒へ教えてもらい、進路担当以外の教員も勉強になった」などの意見があった。（指導実施の詳細は別紙参照）

【指導の実績】 3校 12回 参加生徒 延べ39名

(8) 企業と高校を結ぶ情報交換会

昨年度と同様に、年度内に2回実施し、市内企業の採用担当者と市内高等学校の進路指導担当教諭が車座になって座り、予め設定したテーマについて、意見及び情報等の交換が行われた。また、後半は、高校毎に進路指導担当教諭を囲む形に座席を変え、情報交換したい企業の採用担当者が教諭のテーブルに伺う形とした。なお、意見及び情報等をまとめた資料を作成し、後日、参加者に配布した。

① 第1回目

日 時 平成30年7月3日（火）
場 所 小樽市消防庁舎 6階 講堂
参加企業 29社 35名
参加高校 5校 5名

参加機関 1 署 1 校 2 名

テーマ

- ・「地元企業を理解してもらう方策」について
- ・「早期離職や雇用ミスマッチ」を防ぐ「高校のキャリア教育」「企業の採用等」について
- ・「高校生の希望や着眼点」について

【後日配布した資料の概要】

(ア)「地元企業を理解してもらう方策」について

- ・現在までに取り組んできたこと及びその状況

企業側からは、「高校生とコラボして出来上がった商品を展示会で販売した」などの意見があった。
学校側からは、「地元で勤めている卒業生に講話をお願いして、地元企業を知ってもらっている」などの意見があった。

- ・これから取り組んでいきたいこと及び要望

企業側からは、「学校への訪問を積極的に行っていきたい」などの意見があった。

学校側からは、「小樽市内の企業を生徒に知らせることが大事だと思う」などの意見があった。

(イ)「早期離職や雇用ミスマッチ」を防ぐ「高校のキャリア教育」「企業の採用等」について

- ・現在までに取り組んできたこと及びその状況

企業側からは、「入社した子に対して、会った時は必ず声掛けをしている」などの意見があった。
学校側からは、「応募前見学を必ず行っている」などの意見があった。

- ・これから取り組んでいきたいこと及び要望

企業側からは、「1人1社応募のルールを無くして欲しい」などの意見があった。

学校側からは、「企業見学の際、その会社に勤める上で大変なことも伝えて欲しい」などの意見があった。

(ウ)「高校生の希望や着眼点」について

学校側からは、「生徒は「休み」を凄く気にしている」などの意見があった。

② 第2回目

日 時 平成31年1月10日(木)

場 所 小樽経済センタービル 4階 ホールA&B

参加企業 19社 22名

参加高校 4校 4名

参加機関 1署1校 2名

テーマ

- ・企業様から「高校生に地元企業を理解してもらう方策」について
- ・高校様から「現在の自校の就職状況」及び「取組み」について
- ・小樽市から新年度事業案「企業出前説明会」について、及び質疑応答

【後日配布した資料の概要】

ア)「高校生に地元企業を理解してもらう方策」について

- ・自社の取組みや提案など

「高校と連携して商品開発を行った」、「学校訪問に力を入れている」などの意見があった。

- ・その他取組みや提案など

地元企業を選んでもらうための取組みとしては、「夜勤や時間外手当、有給休暇の見直しを行っている」などの意見があった。

離職しないようにするための取組みとしては、「入社1ヶ月後や半年後に面談を行っている」などの意見があった。

- ・問題点など

「他社ブランドで製造しているためか知名度が低く、募集しても厳しい状況である」などの意見があった。

(イ)「現在の自校の就職状況」及び「取組み」について

- ・現在の自校の就職状況

「今年度の内定者の地元志向はかなり強い」などの意見があった。

- ・自校の取組み

「応募前見学を推奨しており、複数の企業を見学させてミスマッチを防ぐために取り組んでいる」などの意見があった。

- ・その他

「生徒は給料の額もそうだが、土日祝が休めて休みが充実している方が大きな魅力である」などの意見があった。

(ウ) 新年度事業案「企業出前説明会」について

- ・「企業出前説明会」についての説明及び質疑応答

小樽市からは、「札幌市内にある大学も含めて検討し、取り組んでいきたい」などの説明があった。

企業側からは、「開催時期について、3年生対象ならば求人票公開前の6月下旬、2年生対象ならば6月中旬が良いのではないか」などの意見があった。

学校側からは、「企業理解や職種理解という意味では、「企業出前説明会」のような機会はあるべき」などの意見があった。

関係機関からは、「既に企業が高校で説明会を行っている所もあるが、すぐに他校も出来るかという難しい」などの意見があった。

- ・その他意見や提案など

企業側としては、「スマートフォンなどで企業を説明するものを作っただけだと有り難い」などの意見があった。

Ⅲ. 新卒未就職者、若年早期離職者への支援

本事業は新卒未就職者及び若年早期離職者に対して、高校生への支援同様に各取組を実施して早期の正規雇用実現を図るものであるが、今年度の登録者は2名（前年度は3名）であり、新卒未就職者や若年早期離職者を本事業の登録にいかにつなげるかが課題である。

なお、就活セミナーや企業見学会については高校生との日程調整がつかず、高校生との共同実施が出来なかったが、就活実践サポート（履歴書の指導・面接の指導など）を実施し、正規雇用実現までの間の生活支援として市内企業を中心としたアルバイト求人情報を提供した。結果として、対象の2名は、各々、正社員、アルバイトとしての就職に繋がった。

IV. 平成30年度事業を終えて（現状と課題及び今後の取組）

（1）高校生（就職希望生徒）への支援について

人口減少、特に若年者の市外流出を抱える小樽市においては、「地元に住み続けたい」、「地元企業に就職したい」などと思っている高校生をいかに支援して就職に結び付け、地元定着に繋げるかが重要である。当事務局では早くからこの課題解決に向けて事業目的をシフトして取り組んでおり、地元企業様との積極的な関係づくりを重点的に進め、学校と企業との情報交換を密にしてきた。

平成31年3月に市内の高等学校を卒業する予定の生徒は1,074名、そのうち就職を希望する生徒は251名で卒業予定者全体に占める割合は約4分の1であり、割合としては昨年度より4.6ポイント減っている。また、昨年度の卒業生に対して平成30年5月末に小樽市が実施した最終調査では、就職を希望する生徒は概ね就職が決まっている。市内事業所内定者の割合については、昨年度の卒業生は40.7%で、本年度は2月末時点で48.0%となっており、昨年から7.3ポイント増加している。これは、景気が停滞している中、全国的な人手不足を背景に市内企業においても「地元高校生を採用し育成したい」といった思いで、小中学校のときから職業体験に協力し、高校と連携して商品開発を行うなど、高校生に地元企業を理解してもらうための取組みが功を奏したことも要因の一つと考えられる。ただ、観光とサービス業が多い小樽の企業においては、「地元企業を選んでもらう」ために休みの日の充実など、ワークライフバランスを重視する世代の高校生の心をつかむ求人活動には不安材料があり、これらを払拭するためにも、今後も本事業が市内の企業と学校や高校生を結ぶパイプ役として更なるアプローチや各種提案等、新規の事業プログラムの開発に積極的に取り組んでいきたい。

また、先輩との交流会への生徒の参加を増やすために、先輩が参加して頂ける企業を出来るだけ早く選定して高校に周知することが必要である。他に、スマートフォンを当たり前のツールとして使いこなすZ世代の高校生に対しては、インターネットを通じた市内企業の情報提供は紙媒体より有効であると考えられる。

（2）「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への支援について

「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への支援については今年度の対象者が2名であり、本事業に対象者を結びつけることは難しかった。

北海道における就職後3年以内の離職率（平成27年3月卒業から平成30年3月まで）は、高校で44.8%と全国よりも5.5ポイント高い。若者の早期離職は正規雇用への転職ができず、転職しても労働条件が悪くなるなど、さらに転職を繰り返すリスクが高まるほか、企業にとっても人材不足、技術・ノウハウの継承に影響するなど、若者と企業の双方にとって問題があるとされている。

このため、北海道では、平成28年3月に、今後4年間の総合的な取組方向を示した「若者早期離職防止総合対策プログラム」を策定し、在学時や就活時、就職後など各ステージにおける若者・企業双方への支援を取り組むこととしている。

本市においても、「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への対策は引き続き必要であり、個人情報等の取扱いなどから学校など関係機関の協力が難しい中でも、新卒未就職者や若年早期離職者と市内事業所の求人を如何にマッチングさせるかが課題となっている。

1. 登録者のうち平成31年3月に卒業する生徒の就職・進学状況

| 就職・進学状況 | | 就職 | | 進学 | その他 | 合計 |
|-------------|---------|----|-----|-----|-----|-----|
| | | 内定 | 活動中 | | | |
| 高校生登録者 | 全日制3年生 | 35 | 0 | 178 | 2 | 215 |
| | 定時制最終学年 | 5 | 2 | 4 | 2 | 13 |
| | 計 | 40 | 2 | 182 | 4 | 228 |
| うちフォローアップ生徒 | 全日制3年生 | 3 | 0 | 5 | 2 | 10 |
| | 定時制4年生 | 5 | 2 | 3 | 1 | 11 |
| | 計 | 8 | 2 | 8 | 3 | 21 |

※定時制の卒業生を「定時制最終学年」としたのは、4年制の他に3年制で卒業する生徒も含むため

2. 個別事業の実績一覧

| 事業名 | 実績項目 | H30年度 実施状況 | H29年度 実績 | H28年度 実績 | H27年度 実績 | 備考 |
|---------------|------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------------|
| 就活セミナーⅠ | 回数 | 9回 | 3回 | 2回 | 3回 | |
| | 参加者数 | 216名 | 203名 | 233名 | 161名 | 参加者数は延数 |
| 就活セミナーⅡ | 回数 | 4回 | - | - | - | |
| | 参加者数 | 81名 | - | - | - | |
| 企業見学会 | 回数 | 10回 | 12回 | 10回 | 6回 | 年度内で12回を計画し、10回実施 |
| | 参加者数 | 29名 | 34名 | 71名 | 25名 | |
| インターンシップ | 企業数 | 2社 | 6社 | 5社 | - | |
| | 参加者数 | 2名 | 7名 | 7名 | - | 参加者数は延数 |
| 先輩との交流会 | 企業数 | 4社 | - | 4社 | 4社 | |
| | 先輩数 | 5名 | - | 5名 | 4名 | |
| | 参加者数 | 4名 | - | 6名 | 5名 | |
| 就活実践サポート | 回数 | 12回 | 141回 | 123回 | 105回 | |
| | 参加者数 | 39名 | 141名 | 120名 | 101名 | 参加者数は延数 |
| 企業と高校を結ぶ情報交換会 | 企業数 | 48社 | 40社 | 24社 | 19社 | 参加企業数は延数 |
| | 学校数 | 9校 | 11校 | 7校 | 7校 | 参加学校数は延数 |
| | 回数 | 2回 | 2回 | 1回 | 1回 | |
| | 参加者数 | 70名 | 63名 | 46名 | 34名 | 参加者数は延数 |

3. 企業見学会（開催日、見学先、参加した生徒数）

| | 実施日 | 見学先企業・施設名 | 参加人数 | 備考 |
|-------|-------------|----------------|------|-------------|
| 第1回 | 平成30年6月23日 | 株式会社 かま栄 | 2名 | |
| 第2回 | 平成30年7月13日 | ワタキューセイモア 株式会社 | 8名 | 9名予定の内、1名欠席 |
| 第3回 | 平成30年7月14日 | 株式会社 エムデジ | 1名 | |
| 第4回 | 平成30年7月14日 | 新日本海フェリー 株式会社 | 4名 | 5名予定の内、1名欠席 |
| 第5回 | 平成30年7月25日 | 小樽市消防署 | 6名 | |
| 第6回 | 平成30年8月2日 | 株式会社 宏楽園 | 2名 | |
| 第7回 | 平成30年8月3日 | 株式会社 新倉屋 | 2名 | |
| 第8回 | 平成30年9月8日 | 社会福祉法人 小樽北勉会 | 1名 | |
| 第9回 | 平成30年10月13日 | 稲穂スズキ 株式会社 | 0名 | 参加者ゼロのため中止 |
| 第10回 | 平成30年11月17日 | 有限会社 ツクナカ | 0名 | 参加者ゼロのため中止 |
| 第11回 | 平成31年1月19日 | 株式会社 紀伊國屋書店 | 1名 | |
| 第12回 | 平成31年2月16日 | 株式会社 ニュー三幸 | 2名 | |
| 参加者総数 | | | 29名 | |

4. 企業と高校を結ぶ情報交換会（参加企業・職員、参加学校・職員）

(1) 第1回目

| No | 参加企業 | 参加者数 |
|----|-----------------|------|
| 1 | 伊藤ハムデイリー 株式会社 | 1名 |
| 2 | HRS 株式会社 | 2名 |
| 3 | 株式会社 エムデジ | 1名 |
| 4 | 社会福祉法人 小樽育成院 | 2名 |
| 5 | 小樽中央自動車学校 | 2名 |
| 6 | 小樽典礼 株式会社 | 1名 |
| 7 | 社会福祉法人 小樽北勉会 | 1名 |
| 8 | 株式会社 温泉宏楽園 | 1名 |
| 9 | 株式会社 かま栄 | 1名 |
| 10 | 共和紙業 株式会社 | 1名 |
| 11 | 極東高分子 株式会社 | 2名 |
| 12 | 株式会社 恵新自動車学園 | 1名 |
| 13 | 株式会社 NPGコトメンフーズ | 1名 |
| 14 | 西條産業 株式会社 | 1名 |
| 15 | 株式会社 新宮商行 銭函工場 | 1名 |
| 16 | 新日本海フェリー 株式会社 | 1名 |
| 17 | 第一ゴム 株式会社 | 1名 |
| 18 | 大和水産 株式会社 | 1名 |
| 19 | 千歳工業 株式会社 | 2名 |
| 20 | 有限会社 ツクナカ | 1名 |
| 21 | 道央エンジニアリング 株式会社 | 1名 |
| 22 | 株式会社 新倉屋 | 1名 |
| 23 | 医療法人 勉仁会 東小樽病院 | 1名 |
| 24 | ヒーリングサロン 癒しの森 | 2名 |
| 25 | 北海道ワイン 株式会社 | 1名 |
| 26 | 宮本土建工業 株式会社 | 1名 |
| 27 | 山吹商工 株式会社 | 1名 |
| 28 | 株式会社 六美 | 1名 |
| 29 | ワタキューセイモア 株式会社 | 1名 |
| | 合 計 (29社) | 35名 |

| No | 参加高校名 | 参加者数 |
|----|--------------------|------|
| 1 | 北海道小樽桜陽高等学校 | 1名 |
| 2 | 北海道小樽商業高等学校 | 1名 |
| 3 | 北海道小樽水産高等学校 | 1名 |
| 4 | 北海道小樽未来創造高等学校（全日制） | 1名 |
| 5 | 小樽北照高等学校 | 1名 |
| | 合 計 (5校) | 5名 |

| No | 参加機関名 | 参加者数 |
|----|---------------|------|
| 1 | 小樽公共職業安定所 | 1名 |
| 2 | 国立大学法人 小樽商科大学 | 1名 |
| | 合 計 (1署、1校) | 2名 |

(2) 第2回目

| No | 参加企業 | 参加者数 |
|----|----------------|------|
| 1 | HRS 株式会社 | 1名 |
| 2 | 株式会社 エムデジ | 1名 |
| 3 | 社会福祉法人 小樽育成院 | 2名 |
| 4 | 小樽典礼 株式会社 | 2名 |
| 5 | 社会福祉法人 小樽北勉会 | 1名 |
| 6 | 株式会社 温泉宏楽園 | 1名 |
| 7 | 株式会社 かま栄 | 1名 |
| 8 | 株式会社 恵新自動車学園 | 2名 |
| 9 | 昭和製器 株式会社 | 1名 |
| 10 | 株式会社 新宮商行 銭函工場 | 1名 |
| 11 | 新日本海フェリー 株式会社 | 1名 |
| 12 | 大和水産 株式会社 | 1名 |
| 13 | 有限会社 ツクナカ | 1名 |
| 14 | 株式会社 新倉屋 | 1名 |
| 15 | 医療法人 勉仁会 東小樽病院 | 1名 |
| 16 | 株式会社 丸本 本間食品 | 1名 |
| 17 | 山吹商工 株式会社 | 1名 |
| 18 | 株式会社 六美 | 1名 |
| 19 | ワタキューセイモア 株式会社 | 1名 |
| | 合 計 (19社) | 22名 |

| No | 参加高校名 | 参加者数 |
|----|---------------------|------|
| 1 | 北海道小樽桜陽高等学校 | 1名 |
| 2 | 北海道小樽水産高等学校 | 1名 |
| 3 | 学校法人 北海道龍谷学園 双葉高等学校 | 1名 |
| 4 | 小樽北照高等学校 | 1名 |
| | 合 計 (4校) | 4名 |

| No | 参加機関名 | 参加者数 |
|----|---------------|------|
| 1 | 小樽公共職業安定所 | 1名 |
| 2 | 国立大学法人 小樽商科大学 | 1名 |
| | 合 計 (1署、1校) | 2名 |